

Hiroshima University 広島大学

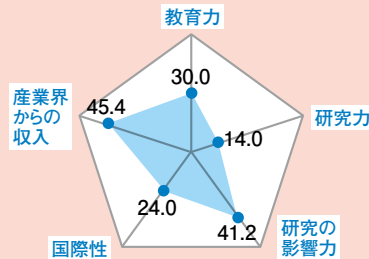
スコアの低い分野こそ伸びる余地がある
トップ100までの道筋・指標を明確化



学生数 / 14,639人
学 部 / 総合科、文、教育、法、経済、理、医、歯、薬、工、生物生産
大学院 / 総合科学、文学、教育学、社会科学、理学、先端物質科学、
医歯薬保健学、工学、生物圏科学、国際協力、法務

指標	ポイント	ランキング	その他指標
総合	27.6-32.5	501-600位	ST比率 / 8.2
教育力	30.0	351-400位	留学生の割合 / 6%
研究力	14.0	601-800位	
研究の影響力	41.2	501-600位	女男比 / 36 : 64
国際性	24.0	601-800位	
産業界からの収入	45.4	301-350位	

ランキング担当部署: グローバル化推進室、大学経営企画室



*データは全て THE 世界大学ランキング 2016-17 に基づく

トップ100に必要な 教員の活動指標を設定

本学は研究大学として世界上位をめざし、国際的な位置付けを示すものとして、各世界ランキングには早期からエントリーしていった。ただ、全学的に強く意識し始めたのは、スーパーグローバル大学創成支援事業の申請準備を行っていた2013年ごろからです。「世界大学ランキングトップ100を目指す大学」であるタイプAで申請する以上、その道筋を示す必要があると考え、独自の指標「*1 A-KPI」を定めました。

ランキングの指標を分析し、10年後にトップ100に入るようなレベルの大学に必要な取り組みを5つの項目に分類し、その量をシミュレーション。「論文3報で300ポイント」というように取り組み量をポイント化し、教員1人あたり平均1000ポイントを達成すれば、1000位入りできるだろうというしくみです。

重要なのは「平均」1000ポ

イントという点。全教員が5つの項目をまんべんなくポイントを取得する必要はなく、得意不得意を補い合って、学部・研究科単位でバランスを整えればよい。内部競争で疲弊させるのではなく、各自の強みを効果的に活用することが目的です。

人文社会系の英語論文や 海外発信が「伸びしろ」

今回のランキング結果からも、本校の立ち位置と課題が浮き彫りになりました。低スコアの指標つまりこれまで苦手意識から手薄だった部分こそ伸びしろだと認識し、対策を続けています。

課題の一つは、人文社会系の英文論文数です。日本の大学共通の課題ですが、同じ非英語圏の韓国や台湾の大学には被引用数が多い大学が複数あり、向上の可能性があると判断しました。図書館内に設置したライティングセンターに専任教員、外国人職員各1名を置き、英語論文の書き方を相談で

きるしくみを整えました。

評判調査のスコアが低調なのは、発信力の弱さが原因だと考えています。THEでは国内13位でしたが、ランキングの指標の一つである「論文被引用数」のスコアで見ると高い位置。つまり研究実績があるにもかかわらず、海外に知られていないのです。そこで、本学のホットな内容をまとめた英語の案内を作成し、理事、副学長等が海外出張時に海外の大学へ本学の状況を紹介、さらなる交流を呼びかけました。また外国人*2 URAを雇用しプレスリリースを行うなど、ここ2年間で海外への研究発信力を大幅に強化しました。

A-KPI導入時は学内に反発もありましたが、こうした施策によって成果が見えてくるにしたい、ポジティブに取り組む教員が増えており、近い将来のランキングアップに手応えを感じています。



副学長(大学経営企画担当)
大学経営企画室長
渡邊 聡

わたなべをとし ●1997年コロンビア大学ティチャーズカレッジ卒業その後同大学大学院にて修士号(統計学、経済学、教育学)博士号(経済学及び教育学)取得。コロンビア大学政府統計アナリスト、世界銀行・コンサルタント、カリフォルニア大学バークレー校客員研究員などを経て、2016年から現職。

*1 Achievement-motivated Key Performance Indicators
*2 University Research Administrator:リサーチ・アドミニストレーター。大学等における研究マネジメント人材